連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1327　2025/03/27（THU ）

発行　広島高校連絡会事務局
Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp
HP　http:// ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/
携帯 090－1180－7644（村井義幸）
090－9738－8264（望月照巳）

教育産業

令和7年度高校入試、定員割れが約6割！
～定員割れは公立高校の統廃合につながる

広島女学院大学が経営破綻

広島市の老舗の女子大，広島女学院大学が経営が成り立たなくなり，経営権を専門学校などを運営するグループに移行するという報道がありました。中国新聞は「地方私立大　少子化で苦境」と見出しをつけ，「18 歳人口の減少に伴い私立大は６割が定員割れしており，とりわけ地方の小規模校を取り巻く環境は厳しい。広島女学院の経営移行方針は，広島都市圏の人口規模でも，受験生のニーズに対応できないと大学経営が難しくなる現実を突きつけた」と解説しています。しかし私はそれだけではないように感じます。広島地域の女子高校生の、進学先の選択肢として，安田女子大学がありますが，80 年代から 90 年代にかけて２つの大学の偏差値ランクは、女学院の方が上，たとえば文学系統の進路では、２つの大学両方とも合格すれば女学院を選択していた高校生が多かった。それが 90 年代後半頃から安田の方が明らかに偏差値が高くなっていきました。これは女学院と安田の入試戦略の違いが影響していると当時から感じていました。安田は一定の受験生のレベルを維持しながら入試を考え、女学院は目玉の“食物栄養”以外はその辺のねらいが見えなかったように思います。その後も安田女子大学が，薬学，看護，そして今年度から情報系を中心とした理系学部の新設など実学指向を積極的に推進してきました。アストラムラインの駅近という交通の利便性、広報戦略ということもありますが，安田と女学院の差が開いていったように私は感じていました。大学入試は、大学にとって“入り口”の問題。人気の低下→定員割れは経営に直結し、死活問題。今回の例がよく表しています。同じように高校入試は、高校にとっても“入り口”の問題なのです。高校入試のあり方は，高校の存廃に少なからず影響を与えるのです。

2023 年（令和5年度）から高校入試が変わった！

◎自己表現の導入

平川理恵前広島県教育長のイケイケの乗りで，高校入試に導入されたのが「自己表現」，５分間の受検生のパフォーマンスを高校側が採点します。この問題点については連絡会ニュースで何度も個別的・主観的な個性の問題を，本来公正・公平・客観性が問われる高校入試に導入することの罪悪について指摘してきました。実際は学力検査や中学３年間の内申点の総和が、この「自己表現」によって逆転がないようにさまざまな運用がされていると聞きますが，やはり「個性の問題に点をつける」のは誤りなのです。

◎高校入試の改変のおさらい

１）推薦入試を廃止し一次選抜（一般入試）に実質一本化

■今年度の入試日程　２月２６日(水)　学力検査（国・社・数・理・英）
２月２７日(木)　自己表現
２月２８日(金) ３月３日(月) 採点
３月１０日(月) 合格発表

■考えられる問題点

・５教科の学力検査を１日で実施することによって受検生に対する負担増
・高校側の監督割り振り等の実施上の困難さが増大

２検査内容を「学力検査」＋「調査書」＋「自己表現」の３つにする。定員を「特色枠」と「一般枠」に分割し，「一般枠」の採点比率が「学力検査」６：「調査書」２：「自己表現」２となることによって，広島県高校入試で初めて「学力検査重視」になりました。入試学力をつける対策として塾依存がこれまで以上に高まります！

公立高校にとって何の問題もないのに，なぜ変える？

◆推薦入試の役割

「多くの専門高校や中山間地域の学校では，入学者確保を推薦入試に依存」と聞いていました。推薦入試がなくなることによって生徒確保がますます難しくなるという指摘があります。

◆合格者発表が３月９日(今年は３月 10 日)

中学３年生の中には，「少しでも早く進学先を固めようと，公立高校入試より日程が早い私立高校を受験し，入学を決めてしまう」生徒が増加。また設備の整った「私立」に流れていく生徒も実際増えています。

高校入試の改変は「県立高校の“地盤沈下”につながる？」という危惧を感じます。実際数年来，県内全日制高校は６割が定員割れ，欠員数は１０年前より倍増しています。

今年の実質倍率～全体で59%が定員割れ

次の表は県教委が発表している受検１日目の各校の受検率(欠席率)です。これが実質の受検倍率になります。実際の在籍数は４月末に発表され，いずれも県教委のホームページでみることができます。表は市町ごとの募集単位（学科）数を分母にして，倍率を出してみました。

令和7年度公立高校入試の受験状況（定員充足率）

			平成7年度		平成6年度	
市町名	校数（A）	募集単位数（学科＝コース）（B）	受検倍率1倍未満の募集単位数（C）	C／B（%）	受検倍率1倍未満の募集単位数（C）	C／B（%）
広島市	21	37	12	32%	10	27%
呉市	7	8	6	75%	5	63%
竹原市	2	3	3	100%	3	100%
三原市	3	8	3	38%	4	50%
尾道市	6	7	6	86%	4	57%
福山市	12	19	11	58%	11	58%
府中市	3	5	4	80%	5	100%
三次市	3	3	2	67%	1	33%
庄原市	4	8	7	88%	8	100%
大竹市	1	1	1	100%	1	100%
東広島市	7	14	8	57%	9	64%
廿日市市	4	7	4	57%	4	57%
安芸高田市	2	3	3	100%	3	100%
江田島市	1	1	1	100%	1	100%
府中町	1	2	1	50%	1	50%
海田町	1	2	1	50%	0	0%
熊野町	1	1	1	100%	1	100%
安芸太田町	1	1	0	0%	0	0%
北広島町	1	1	1	100%	1	100%
大崎上島町	1	1	1	100%	1	100%
世羅町	1	3	3	100%	3	100%
神石高原町	1	2	2	100%	2	100%
	84	137	81	59%	78	57%

＊受検倍率 0.5 倍未満の学校

●普通科：音戸，三原東，御調，沼南，大門(理数），東城，河内，向原，油木(全)

●専門学科：広島工業(化学工業)，広島市工(環境設備)，福山工業(工業化学)府中東(インテリア)，庄原格致(医療教職)，庄原実業(全学科)，黒瀬(福祉)宮島工業(素材)，吉田(アグリビジネス），世羅(生活)，

高校授業料無償化による影響～考えられる論点

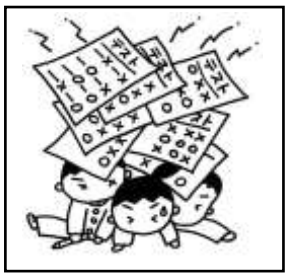
公立私立とも所得制限なしの実質高校授業料無償化が決まりました。高校は準「義務教育」。すべての子どもに高校で学ぶ権利を保障し，子どもにとっていきたい学校の選択肢を増やすのは当然とメリットを主張する人もいますが，高所得者層の授業料を無償にしたら，浮いたお金は塾代などにまわり，教育格差が広がるおそれがある。有力な私学がある都市部では，公私間の競争が促され，公立高校の定員割れ＝公立つぶしの状況が生まれると危ぶむ声があります。

大阪で起こっていること

維新の大阪府では，2024 年春の入試で，私立高校を専願にした生徒の割合は，直近 20 年ではじめて３割超になります。私立高校の人気が高まり，府立高校は，145 校の内約半数の 70 校が定員割れ。大阪では３年連続で定員割れの府立高校は再編整備の対象になるという条例があり，2014 年度から 2024 年度までに 21 校廃止。2027 年度までにさらに５校廃校の計画。まさに「府立高校つぶし」の状況。「授業料が無償でも，制服や通学費の負担が難しく私立に行けない生徒がいる。府立高校がなくなって公平な教育ができるのか」という府立校長の声もあります。中学受験への影響も出ています。府内の今春の私立中学の出願者 15355 人（前年から 885 人増）。この８年間で最多。完全無償化で高校段階の教育費が減るため，中学から私立を希望する世帯が増加しています。

定員割れは高校の統廃合につながる！

公立高校には，すべての生徒が，経済的，物理的，精神的負担なく高校教育を学ぶ権利を保障する使命があります。吉村大阪府知事（維新代表）は「効率的な学校配置をめざして取り組みを進める」といいます。効率という視点だけで生徒の学ぶ権利が奪われたり制限されていいのでしょうか。



行政は，少子化をチャンスに少人数学級，学校規模の縮小などすべての県立高校の教育条件を整備することに努めるべきなのです。

資料　広島県の高校統廃合の考え方

（ア）１学年１学級規模の全日制高等学校

２年連続して，新入学生徒数が入学定員の２分の１（20 人）未満又は全校生徒数が収容定員の２分の１（60 人）未満となった学校については，地理的条件を考慮し，学校活性化地域協議会の意見を聴いた上で，次の①～③のいずれかとする。

① キャンパス校　　② 中高学園構想への移行　　③ 統廃合（市町立学校としての存続を含む）

（イ）中山間地域以外の地域に所在する県立高等学校

今後の生徒数の減少に対して，学校の規模によらず統廃合を検討する。

参考　大阪維新の教育政策批判

高校連絡会ニュース 2021.9.23 号「子どもたち・教員を追い詰める大阪維新の教育」
高校連絡会ニュース 2022.11.3 号「衝撃！20 人に 1 人不登校（中学），不登校最多 24 万人」
高校連絡会ニュース 2023.12.7 号「公立高校つぶしの先進地，「維新」の大阪から学ぶ！」

（本間 英次 ）

あとがき

▼未来は不連続です。けれども、私たちは、明日も今日と同じ状態が繰り返されるだろう、とぼんやりと思っています▼JR 福山駅前（南門を出てすぐ西の広場）に平櫛田中作の「釣り人の像」があります▼彼の言葉は、本質を鋭く見抜いています。「子ども叱るな 来た道じゃ 年寄り笑うな 往く道じゃ 来た道 往く道 ひとり道 みんな来た道 往く道じゃ これから通る 今日の道 通りなほしの きかぬ道 （『心の道』・平櫛 田中）▼そして又、次の言葉も有名です『いまやらねば、いつでも きる』。そして、『わしがやらねばだれがやる』と自分で覚悟すること。これが人間の努力を確実にするものである。」と田中は語っています。そして、ダメ押しはこれでしょう「六十、七十は鼻たれ小僧、男ざかりは百から百から。そしてわしもこれからこれから」▼この2か月、良い内容で勝つことを追求してきましたが、結局のところ、「諦めなければ負けることはない」という、所に落ち着くしかないのか、期待して呼びかけてきたことは実らなかった、でも諦めるものか・・・・▼ところが、ギリギリの土俵際で、呼びかけに応じてくれました。ありがとう頑張る。

2025/03/27

「連絡会ニュース」発効維持募金、ありがとうございます。

◎早速、募金をお寄せいただき、元気と勇気をいただいています。又、今回だけでなく熱いエールと募金をお寄せ頂いた皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。「子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会」の名に恥じぬよう、頑張ります。

♪ 闘う君の歌を、闘わない奴らが笑うだろう ♪

♪ 勝つか負けるか、分からない。 それでもとにかく闘いの「出場通知」を抱きしめて　あいつは海になりました ♫

（ファイト　中島みゆき ）